

不妊治療と漢方

漢方は体のバランスを整えるサポート隊！



Q 男性不妊にも漢方は効くの？

A 「腎」の働きを高める漢方薬を中心に、体質を見極めてご提案します。

中医学では、男性不妊の場合も、生殖機能をつかさどる「腎」に問題が起こっていると考えます。精子や精液の量が少ない、運動率が低いなどの場合にも「腎」の働きを高める漢方薬がよく使われています。また、「腎」のトラブルは、「血」のめぐりが悪い「瘀血」、お酒や脂っこいもの、辛いものの摂りすぎによる「湿熱」によっても起きやすくなります。

Q いつ頃、不妊漢方相談をしたらいいですか？

A 不妊とは避妊をせず、1年以上妊娠しない状態をいいます。ご相談を考慮してみる一つのタイミングです。

昔から漢方では、「妊娠を安定させる」安胎薬が使われてきました。妊娠中にお漢方薬として「当帰散」や「白朮散」などが有名です。そのため漢方相談はいつ頃からでも構いません。また妊娠や身体の仕組みなどの正しい知識をもっておくことで、妊娠につながるケースも多くあります。不妊の期間に関わらずお気軽にご相談ください。

Q 漢方の不妊相談ではどんなことができますか？

A 漢方は体のバランスを整え、「妊娠する力」を高めます。

「子宮内膜の状態」「卵子の質」「ホルモンバランス」。これらは漢方が得意とする分野です。女性の卵巣機能やホルモンバランスを司る「腎」の働きが、何らかの原因により低下してしまうと、月経周期が乱れてしまいます。一方、子宮や卵巣に器質的な問題がある場合、漢方では対応できなかったり、時間がかかることがあります。

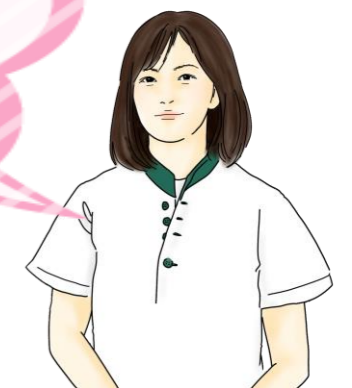
Q 病院での治療中でも相談できますか？

A 大丈夫です。検査結果や基礎体温表をお持ちください。

西洋医学と漢方の併用は、基本的には可能です。排卵誘発剤やホルモン剤の服用は、卵巣に負担がかかることで「腎虚」、特に体が火照るなどの「腎陰虚」の状態になったり、「血」のめぐりの悪い「瘀血」の状態に体質が傾くことがあります。しかし、漢方を併用すると、こうしたバランスの乱れが整えられるので、妊娠の成功率を高めたり、副作用をやわらげたりすることができます。

Q.不妊の漢方相談ってどんなもの？

A.それは、本来の周期に整え、妊娠しやすい体へサポートすることです。

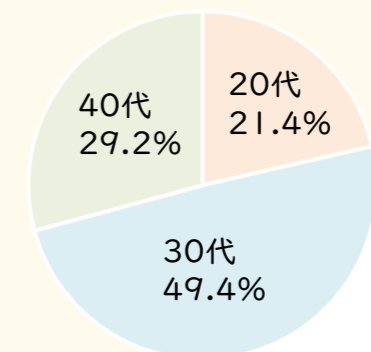


漢方薬剤師：石井

Q 漢方相談にはどんな理由で来る方が多いのかな…

A 20代から40代まで幅広く。理由は人それぞれです。

年代別の不妊相談割合



年代別の原因

【20代】1, 生理不順 2, 多嚢胞性卵巣症候群 3, 無排卵 4, 冷え 5, 黄体機能不全
【30代】1, 生理不順 2, 子宮内膜症 3, 高プロラクチン血症 4, 多嚢胞性卵巣症候群 5, 子宮筋腫
【40代】1, 黄体機能不全 2, 子宮筋腫 3, 子宮内膜症 4, 生理不順 5, 卵巣機能低下

(妊娠力を上げる 漢方的生活2 2010628)